

学校に居場所をつくる・学校とつながる取組 ～校内別室指導について～

不登校児童の状況

対象児童は、情緒不安定でこだわりが強く、自閉傾向があり、衝動性が高く、コミュニケーションが苦手である。校内別室利用時は別室を利用する他の児童と明るく過ごすことができるが、しばしばけんかすることもある。神経過敏や対人関係における衝突傾向があり、コミュニケーション力を育成中である。担任、校内別室指導支援員、管理職、SC、子供食堂等複数の関係者の力で保護者と当該児童を支えている。

具体的な取組

○オンラインでの健康観察、連絡

オンラインで健康観察ができるように、保護者の同意のもと、担任や管理職、担当教員とコミュニケーションツールを利用して、会話ができるようにした。朝からの登校はできないため、オンラインで学習に参加できるようにするなど、子供の状態に合わせた対応ができるようにした。

○教科学習

オンラインや一人1台端末、プリント等を活用して、校内別室内で学習に取り組む時間を設けた。自分のペースに合わせた課題に取り組み、分からないところは担任や担当教員に質問することができるようにした。

1日1回は、担任が課題や当日の活動について声をかけるようにした。

○異学年交流

学習や会話だけでなく、ボードゲームや校庭などの屋外での活動を適宜取り入れ、校内別室指導支援員や他の来室児童との交流を図った。

お互いに声を掛け合うことで、クラブ活動や委員会活動に参加しやすくなった。



○参加可能な活動からの学習・行事参加

折り紙やペットボトルを利用したおもちゃなど、子供たちが興味をもちやすい材料を使って行事に関係する作品を制作することで、参加意欲を高めた。

また、家庭科の作品づくりなど、校内別室内でできる範囲の学習を進めた。



成果

当該児童は、担任だけでなく、管理職や校内別室指導支援員、巡回指導教員と会話できるようになった。

オンラインで健康観察、各教科のプリント、一人1台端末を利用した学習をするなど、学校とつながる日が増えた。

課題

当該児童、保護者対応について職員間の共通理解を図っていく。当該児童を含め、児童一人一人のニーズに応じた教室環境の改善を進めていく。